

## 令和2年第2回公安委員会会議録

日 時	1月23日（木曜日） 自午後1時30分 至午後4時10分	場 所	公安委員会室
会 議	公安委員	原委員長 小野委員 山本委員 高木委員 下山委員	
出席者	警察職員	本部長 警務部長 生活安全部長 刑事部長 交通部長 警備部長 情報通信部長	

### 第1 聴聞等についての決裁

運転免許課長から、聴聞5件、意見の聴取20件について説明があり、決裁が行われた。

### 第2 定例会議

#### 1 令和元年度警察官及び一般職員採用試験結果について

##### (1) 警察官及び一般職員採用試験結果

		公示	応募者数	応募倍率	受験者	受験率	競争倍率	合格者	
警察官	A	男性	46	366	8.0倍	258	70.5%	5.6倍	46
		女性	15	104	6.9倍	76	73.1%	5.1倍	15
		小計	61	470	7.7倍	334	71.1%	5.5倍	61
	B	男性	32	447	14.0倍	273	61.1%	8.5倍	32
		女性	10	160	16.0倍	94	58.8%	9.4倍	10
		小計	42	607	14.5倍	367	60.5%	8.7倍	42
一般職員	警察行政	4	43	10.8倍	33	76.7%	6.6倍	5	
	警察事務	2	47	23.5倍	37	78.7%	18.5倍	2	

- 応募倍率は、応募者数／公示数
- 競争倍率は、受験者数／合格者数
- 警察官は武道指導を除く人数（武道指導は2人。柔剣道各1人）

##### (2) 特徴等

ア 警察官A、Bともに応募者数は前年比減（A－96人、B－113人）

イ 警察行政の応募者数は前年比－22人、警察事務は前年比＋9人

##### (3) 今後の予定

- 令和2年2月13日（木）午後1時30分から警察学校において採用事務手続説明会を実施
- 令和2年4月採用

#### 【委員からの質問等】

委員から「苦勞して倍率を確保していることは素晴らしいと思うが、質の高い

人材を確保するため、さらに工夫して倍率が上がるよう頑張ってもらいたい」旨の発言があった。

## 2 第34回熊本県警察音楽隊定期演奏会「県民ふれあいコンサート」の開催について

### (1) 開催の目的

警察音楽隊の演奏等を通じて、県民との心のふれあいを深めるとともに、演奏会の場を活用した警察広報を行うことにより、警察活動に対する県民の理解と協力を得ることを目的とする。

### (2) 開催日時・場所

令和2年2月15日（土）午後2時から午後4時まで  
熊本県立劇場コンサートホール

### (3) 概要

#### ア 出演者

(ア) 熊本県警察音楽隊楽長以下25人（うち、カラーガード4人）

#### (イ) ゲスト

佐賀県警察音楽隊楽長以下25人（うち、カラーガード3人）

熊本信愛女学院中学・高等学校吹奏楽部17人

#### イ 司会者

ローカルタレント 大田黒 浩一 氏

#### ウ 演奏会プログラム

(ア) 第1部～熊本県警察音楽隊による単独演奏及び熊本信愛女学院吹奏楽部との合同演奏

(イ) 警察広報～交通企画課

(ウ) 第2部～佐賀県警察音楽隊、熊本県警察音楽隊の各隊によるステージドリル

(エ) 第3部～佐賀県警察・熊本県警察音楽隊による合同演奏及び熊本信愛女学院吹奏楽部を交えた3団体による合同演奏

(オ) アンコール

### (4) 演奏会の特徴等

#### ア 佐賀県警察音楽隊、熊本信愛女学院吹奏楽部との合同演奏

佐賀県警察音楽隊、熊本信愛女学院吹奏楽部をゲストに迎え、総勢67人による迫力ある合同演奏を行う。

#### イ 広報活動

(ア) 交通企画課による広報活動

第1部終了後、交通企画課員が、交通安全に関する講話（寸劇）を実施する。

(イ) 音楽隊員による広報活動

第2部のステージドリルで、横断幕等を使用した防犯に関する広報活動を実施する。

### 【委員からの質問等】

委員から「警察活動の一環としてのコンサートなので、若い人達に来てもらえ

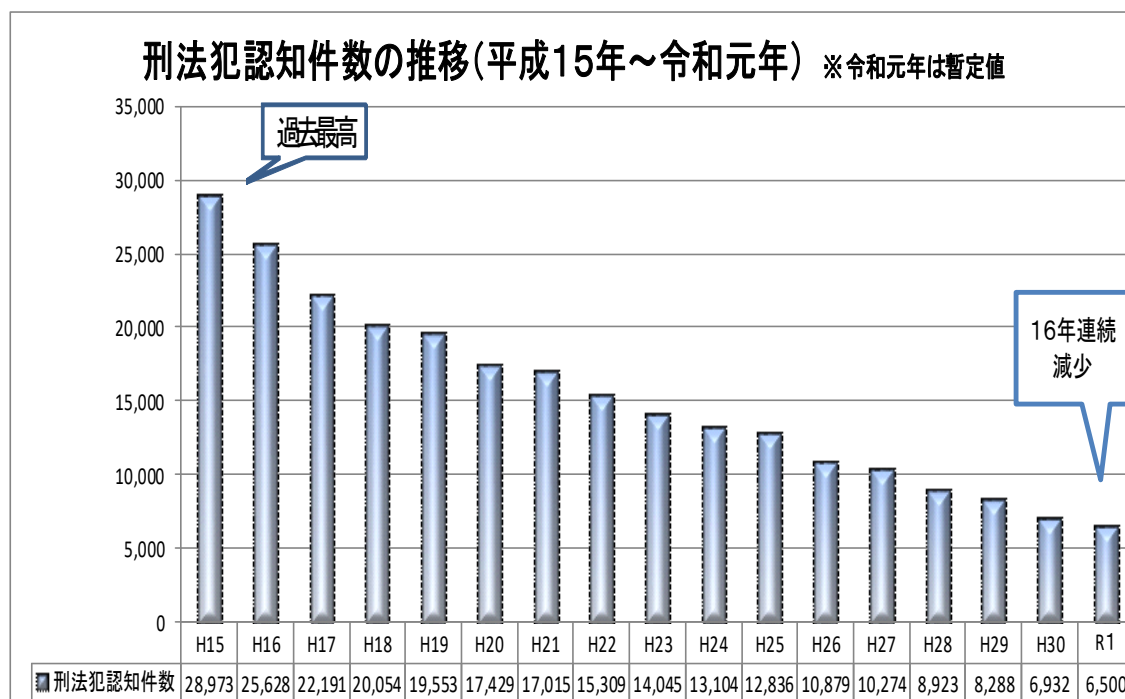
ば警察活動の紹介になると思う。また、広報活動の中で交通安全に関する講話が予定されているが、映像に撮ってユーチューブで見れるようにしてはどうか」旨の発言があり、警察から「講話については県警のユーチューブで見れるようにしたい」旨の説明があった。

### 3 令和元年中の犯罪認知状況等について

#### (1) 県下における刑法犯認知件数等

++

##### ア 刑法犯認知件数（年別推移）



##### イ 本部重点抑止犯罪の認知件数

	認知件数					前年同期比 増減数	前年同期比 増減率 (%)	
	27年	28年	29年	30年	元年			
刑 法 犯 総 数	10,274	8,923	8,288	6,932	6,500	-432	-6.2%	
令 和 元 年 本 部 重 点 抑 止 犯 罪	電話で『お金』詐欺	107	97	145	85	72	-13	-15.3%
	強 制 性 交 等	18	15	19	10	16	6	60.0%
	強 制 わ い せ つ	65	53	57	48	37	-11	-22.9%
	空 き 巣	324	294	191	197	143	-54	-27.4%
	忍 込 み	86	50	50	52	45	-7	-13.5%
	居 空 き	21	22	22	17	10	-7	-41.2%
	合 計	621	531	484	409	323	-86	-21.0%

※令和元年の認知件数は暫定値

ウ 犯罪情勢の主な特徴（令和元年中）

- 刑法犯認知件数が前年比－４３２件と減少
- 平成１６年から１６年連続減少

エ 令和元年中の主な取組

- 犯罪の起きにくい社会づくりの推進
- 創造的復興を支える警察活動の推進

オ ２０２０年本部重点抑止犯罪の指定

- (ア) 電話で『お金』詐欺
- (イ) 子供・女性を狙った性犯罪（強制性交等、強制わいせつ）
- (ウ) 強盗
- (エ) 住宅対象侵入窃盗（空き巣、忍込み、居空き）

(2) 電話で『お金』詐欺の認知状況等

ア 認知件数・被害額（年別推移）

電話で『お金』詐欺		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	前年同期比
認知件数		107	97	145	85	72	-13
被害額(約万円)		32,520	33,076	21,690	12,303	13,120	817
内 訳	振り込み 詐欺	認知件数 102	94	143	74	55	-19
		被害額 30,962	33,049	20,740	11,566	11,504	-62
	振り込み 類似詐欺	認知件数 5	3	2	0	0	0
		被害額 1,558	27	950	0	0	0
	キャッシュ カード詐欺盗	認知件数 -	-	-	11	17	6
	被害額 -	-	-	737	1,616	879	

イ 主な被害防止対策等

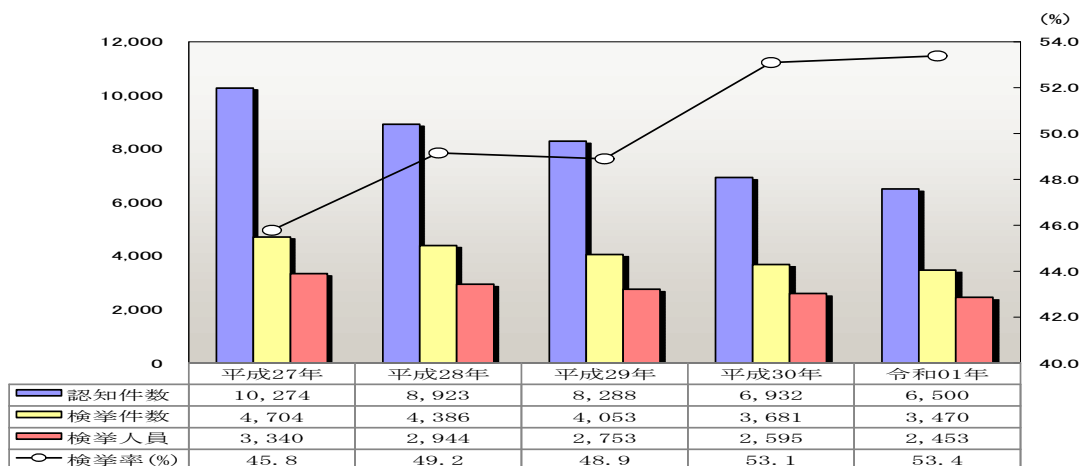
- (ア) 広報啓発活動の強化
  - (イ) 金融機関・コンビニ等における声かけの強化
  - (ウ) 「県警声かけ・訪問隊（通称：県警ひまわり隊）」の運用

【委員からの質問等】

委員から「地域によって犯罪状況も変わることから、情報を早く住民に知らせることが重要だと思う。一人一人の警察官が広報マンとの自覚を持って住民に情報を発信してもらいたい」旨の発言があった。

4 令和元年中（１～１２月）の犯罪検挙状況について

(1) 刑法犯年別推移状況

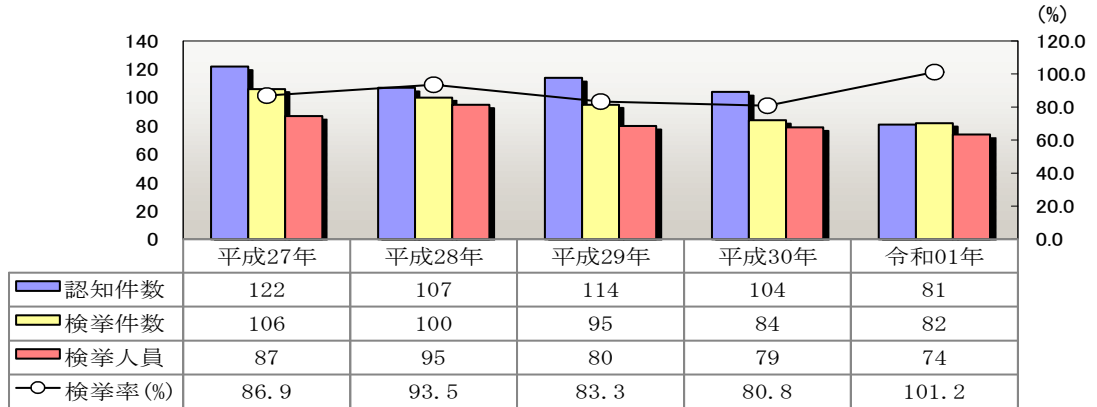


(2) 罪種別検挙状況

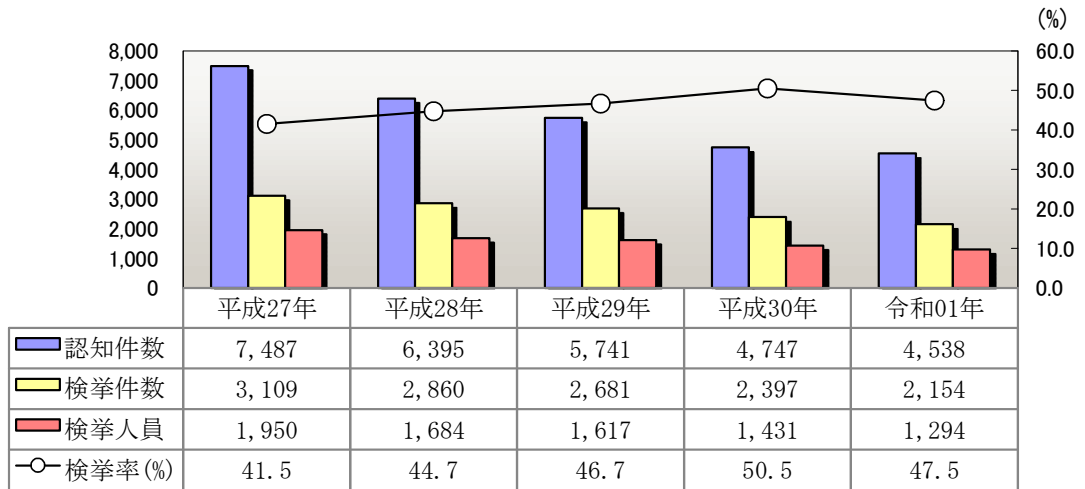
	検挙件数					検挙人員					検挙率				
	27年	28年	29年	30年	01年	27年	28年	29年	30年	01年	27年	28年	29年	30年	01年
総数	4,704	4,386	4,053	3,681	3,470	3,340	2,944	2,753	2,595	2,453	45.8	49.2	48.9	53.1	53.4
凶悪犯	52	50	50	42	40	52	49	46	42	36	98.1	96.2	92.6	84.0	95.2
粗暴犯	749	708	609	614	623	815	761	618	666	697	85.8	86.9	90.0	90.7	94.3
窃盗犯	3,109	2,860	2,681	2,397	2,154	1,950	1,684	1,617	1,431	1,294	41.5	44.7	46.7	50.5	47.5
知能犯	213	251	192	153	212	132	129	136	105	124	55.0	60.0	50.5	51.9	77.1
風俗犯	90	89	93	119	84	75	66	56	66	64	82.6	84.0	69.9	91.5	100.0
その他	491	428	428	356	357	316	255	280	285	238	36.0	37.6	32.8	34.5	39.7

※（前年比増加を青、前年比減少を赤で表記）

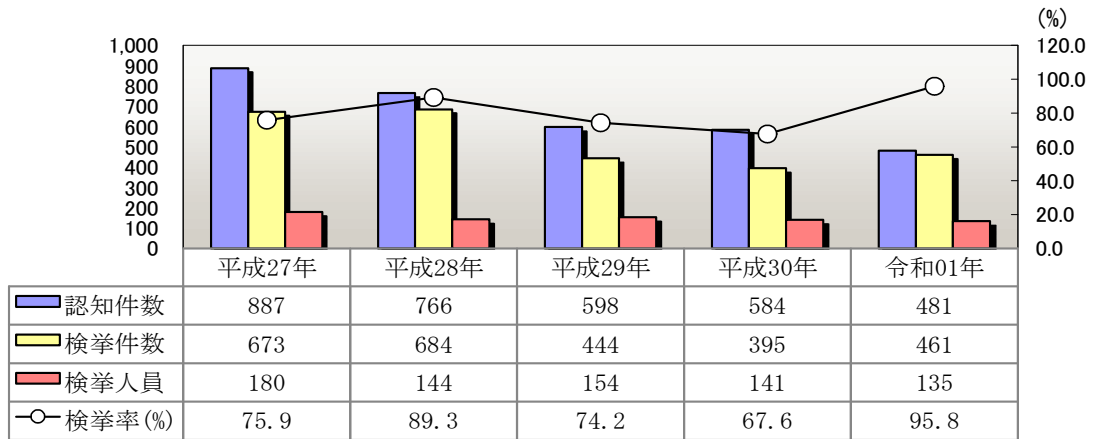
(3) 重要犯罪の認知・検挙状況



(4) 窃盗犯の認知・検挙状況



(5) 重要窃盗犯の認知・検挙状況



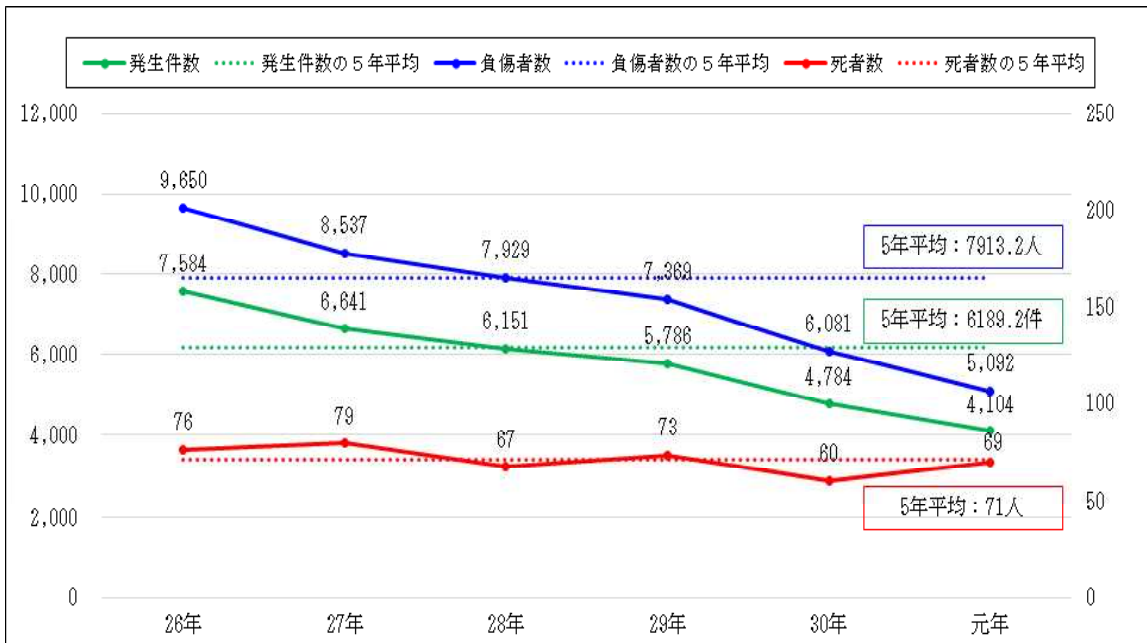
【委員からの質問等】

委員から「認知件数が減少する中で逆に検挙率が上がっているというのは、日頃の訓練や教育の成果が反映された結果と思う」旨の発言があった。

5 令和元年中の交通事故発生状況について

(1) 交通事故発生状況

区分	26年	27年	28年	29年	30年	5年平均	元年	5年平均比
発生件数	7584	6641	6151	5786	4784	6189.2	4104	-2085.2
前年比	-1148	-943	-490	-365	-1002	-789.6	-680	
死者数	76	79	67	73	60	71.0	69	-2.0
前年比	-6	+3	-12	+6	-13	-4.4	+9	
負傷者数	9650	8537	7929	7369	6081	7913.2	5092	-2821.2
前年比	-1575	-1113	-608	-560	-1288	-1028.8	-989	



(2) 交通死亡事故の特徴

区分	歩行者		自転車乗用中		二輪車乗車中		自動車乗車中		その他		合計		
	元年	30年	元年	30年	元年	30年	元年	30年	元年	30年	元年	30年	
子ども(中学生以下)											0	0	
高校生	1			1	1						2	1	
他10代		1			1	1					1	2	
20~24歳			2	1		1					2	2	
25~29歳											0	0	
30~39歳		1			1	1		1			1	3	
40~49歳	2	1			2	1	3 (1)	3			7	5	
50~59歳	6	2	1	2	4	1	3 (1)				14	5	
60~64歳		1		3	3	2	2			1	5	7	
高齢者	65~74	3	3	2		3		5 (1)	10 (2)		1	13	14
	75以上	12	8	5	2	2	4	5 (2)	7 (2)			24	21
合計	24	17	10	9	17	11	18 (5)	21 (4)		0	2	69	60

ア 年齢層別では、高齢者が増加し、全体の過半数を占める。

- ・ 高齢死者37人（前年比+2人、構成率53.6%）  
うち、75歳以上24人（同+3人、64.9%）

イ 状態別では、歩行中・二輪車乗車中が大幅に増加した。

- ・ 歩行中死者24人（同+7人、34.8%）  
うち、65歳以上の高齢者15人（同+4人、歩行中死者の62.5%）  
うち、道路横断中10人（66.7%）
- ・ 二輪車乗車中死者17人（同+6人、24.6%）  
（出会い頭8件、正面衝突3件、右折直進3件、車両単独2件、その他1件）
- ・ シートベルト非着用死者10人（同-2人、10人全員が着用なら助かったと推定）

【委員からの質問等】

委員から「自転車に高齢者が不安定な状態で乗っている姿をよく見掛ける」旨の発言があり、警察から「街頭での声掛けやひまわり隊で把握した高齢者に対し、重点的に安全対策を実施していく」旨の説明があった。

6 令和元年中における機動隊の活動状況について

警備部から、「令和元年中における機動隊の活動状況」についての報告が行われた。

第3 報告・決裁等

1 監察業務の報告

監察課長から報告が行われた。

2 令和2年第1回公安委員会会議録の決裁

公安委員会事務室から説明があり、決裁が行われた。

3 審査請求(R1 No.4)終結の決裁

公安委員会事務室から説明があり、決裁が行われた。

4 審査請求(R1 No.4)審理経過調書作成の報告

公安委員会事務室から報告が行われた。